

青木東田遺跡（韮崎市教育委員会）

青木東田遺跡は、韮崎市清哲町青木に位置します。今回は、農業基盤整備に伴い発掘調査を行いました。青木東田遺跡周辺には、古代では甘利荘が形成され、中世では甲斐源氏一派である武川衆が屋敷を構えていたことが記録されています。

本調査でも平安時代や戦国時代の遺構・遺物が多数確認されました。

遺跡の中で最も特徴的なものとして、中世戦国期に流通していた貿易陶磁器や天目茶碗の欠片が出土しました。これらは、当時ステータスシンボルとしての意味を持っていて、遺跡の周辺で身分の高い人が住んでいた可能性があります。

また同じ遺構内で、鉄滓（てっさい）や鉄が付着した鞆（ふいご）の破片が出土していることから、鉄の生産をしていたことが考えられます。



平安時代の住居跡

榎原・天神遺跡（第3地点）（南アルプス市教育委員会）



榎原・天神遺跡全景

榎原・天神遺跡は御勅使川扇状地扇端部に立地しています。市道八田13号・161号線の拡幅工事に伴い発掘調査が実施されました。

調査の結果、平安時代の溝跡や住居跡、中世の溝跡や土坑墓などが発見されています。とりわけ南北に走る現在の道路とほぼ同じ方向に走る溝が多数発見され、そのいくつかは道路跡と推察されます。また17号溝からは不整五角形を呈する板状の鉄製品が2点発見され、東日本では他に類例がなく注目される遺物です。

調査地点の西側には八田牧に関連する集落と考えられている百々遺跡が立地しており、本遺跡も牧あるいはその前身のものに関連する遺跡と推測できます。

大木戸遺跡（甲州市教育委員会・山梨文化財研究所）

笛吹川と重川に挟まれた甲州市塩山下於曾・熊野地区に位置しており、両河川によって形成された南にゆるやかに傾斜する扇状地のやや小高いところに立地しています。調査によって、平安時代後期の竪穴住居跡9軒をはじめとして、土坑・ピット67基、溝跡7条、竪穴状遺構1基などが発見されました。

調査によって発見された遺物には、縄文時代中期の土器・石器をはじめとして、平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器などの土器類、刀子・鎌などの鉄製品、砥石、土錘などの土製品、鍛冶に関わる遺物などがあります。

本地域は、『和名類聚抄』に記載された、「山梨郡於曾郷」の中核を成す集落であったものと思われます。



1号土坑の土師器坏類出土状況